



㈫日本損害保険協会から市消防団答志分団に、小型動力ポンプ付き軽消防自動車1台が寄贈され、1月28日に答志島ストックヤードで寄贈式が行われました。

同協会は、地理的条件から他地域の支援が得られにくい離島の自主消防力の充実に協力するため、昭和57年から毎年、離島を対象に消防機材を寄贈しています。

軽消防車は、島の狭い路地にも進入しやすく、火災予防の啓発や消火活動など島民の安全・安心のために活用されます。

島の安心のようぶらんど



高丘子ども会では、毎年、1月中旬から約2週間、町内を回って火災予防を呼び掛けています。小学3年生以上のこどもたちが中心になって取り組んでおり、冬の夜の恒例行事として、20年以上も続けられています。

1月22日にも、「火の用心、マッチ一本火事のもと」「焼き肉焼いても家焼くな」など元気な声に合わせて、拍子木を打ちながら、町内を歩きました。

こどもたちがずっと受け継いできた「火の用心」。保護者も一緒に楽しみながら、これからもこの伝統を守っていきたく願っているそうです。

子ども会、頑張っています！

まちの話題 18号



海の博物館が主催する「第3回海はひろいな大賞」の公募に、13都道府県から464点の応募があり、1月16日に行われた最終審査で、岡本海斗くん（国崎小4年）の「深海に住むちょうちんあんこう」が鳥羽市長賞に選ばれました。

海斗くんは、「ものを造るのが好きなので、楽しみながら造りました。貝殻を使ったヒレを付けるのが難しかった」と受賞の感想を聞かせてくれました。

また、森本恵津子さん（池上町）の「海宇宙」がキュートで賞を受賞しました。

ごみが生まれ変わったよ



2月15日、教育委員会が市民文化会館で「アロマセラピー体験教室」を開きました。アロマセラピーは、植物の持つ香りや機能を、心身の健康や美容に役立てる自然療法です。

教室では、講師の佐藤眞砂子さんに、植物から抽出した精油の効能や香りについて説明を受けた後、お好みの精油を選んで蜜蝋みつろうなどの材料に加え、練り合わせて自分に合ったハンドクリームを作りました。会場には芳香が漂い、参加したみなさんからは、「思ったより簡単で、楽しかった」という声が聞かれました。

好きな香りでハンドクリームをつくろう